

芸術で生徒の視野広げる

勝山市を舞台に「ふるさと回帰ショートムービー」を制作した日本大学芸術学部が、勝山高校で出前事業を開催。希望した1・2年生26人に対して「映画とコミュニケーション」をテーマに、松島哲也教授（日大芸術学部映画学科）と日大学生が講師となり、映画の基本と歴史、ショートムービー作成時の体験談などを講演しました。生徒たちは、芸術の世界を通じて新たな刺激を受けた様子でした。

また、受講者から4人を選抜し、松島教授指導のもと、日本大学芸術学部の学園祭の様子を、勝高生が動画撮影・編集し発表する課外授業も行いました。

●課外授業参加者の声

久保 葵さん（2年） 想像以上に個性豊かな人や作品が多く、自分も自由な発想で作品作りをしたい

鈴木春奈さん（2年） 若い人たちの作品を一度にたくさん見られてとてもよかった

山田哲也さん（2年） 工業デザインの分野に新たに興味を持った。もっと絵の勉強もしてみたい

原田優梨菜さん（1年） 続けていくとつらいこともあるけど、好きじゃないと続けていけないと思った

勝山高校と日本大学芸術学部が連携



出前講座の様子（勝山高校）



課外授業の様子（日本大学芸術学部江古田キャンパス）



学園祭の様子

勝高生が制作した動画は、今後市ホームページに掲載します

キャリア教育を振り返って

今回開かれた「キャリア教育」の講義内容は、講師の方がその職業を選んだきっかけやエピソードに触れながら、会社が求める人物像、必要な力をお話し頂くだけでなく、苦労したことやその乗り越え方、高校時代の過ごし方など生徒にとっての貴重なアドバイスが含まれる素晴らしいものでした。また、ふるさと勝山や母校である勝高への愛情を言葉の端々に感じられ、後輩である生徒たちも、将来を考える貴重な時間であり、体験となったと信じています。



県立勝山高等学校
校長 山田 栄司

講義をして頂いた講師の方々と、「キャリア教育」開催にご尽力頂いた勝高同窓会や同窓会東京支部の皆様へ、厚くお礼申し上げます。

勝高は、少子化の影響もあり、生徒数が最も多かった頃に比べると現在では1／4ほどの規模になり、県で一番小さい普通科高校となっています。しかし、これをメリットとして捉え、生徒一人ひとりの「個に応じた」進路実現に向け、全校を挙げて頑張っています。

また、学校の魅力向上、特色化の一環として「地域密着型」学校づくりに取り組み、その柱として「勝山人」をテーマとする課題解決型学習を取り入れています。その代表が「かっちゃま創生プラン」であり、1年で地元探究、2年で他地域との比較、3年でよりよい勝山とするための提言としてまとめる探究活動を行っています。今年8月9日には「市長と語る会」で山岸市長に提言させて頂きました。

このように、市、同窓会を始め、多くの関係機関との連携を図りながら、勝山市唯一の高校として、地域に信頼され、期待が集まる学校にしていけるために、皆様方の後輩も頑張っています。

引き続き、勝山高校に対しまして、様々な面での皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。



東京奥越経済同友会
勝高同窓会東京支部
会長 出口 忠夫

他自治体で中学生向けのキャリア教育を実施した経験から「勝山市でもキャリア教育を」と考えました。

勝高OBで地域おこし協力隊の吉川さんと勝高に尽力頂き、勝高で実施する運びとなり、勝高支援の一助になればと会員に声掛けしたところ、今

回の講師の方々に快諾頂きました。

市内中学の卒業生が半数しか勝高を志望しないのは重要問題と思っています。高校の存在は自治体基盤に不可欠です。行政・教育機関のみならず、市民を巻き込んで改善策を議論し、特徴のある高校を目指して頂きたいと思います。私たちも、今後は中学生へのキャリア教育に取り組みたいと考えています。

私の高校時代、1学年の生徒数は約500人でした。楽しい思い出もありますが、3年間のきつい自転車通学が、私の「我慢強さ、打たれ強さ、負けず嫌い」の源泉です。

高校卒業以降、私は「生まれは田舎の勝山で、実家は百姓。スマートではないが正直さではだれにも負けない」と公言してきました。それは「自然体、素のままの自分が一番」という自分の生き方を伝えるため、勝山での暮らしが私の人生のバックボーンとなっているのです。

今の勝高生と会ってみて、とても礼儀正しいがおとなしい印象を受けました。「議論できる人」「自分の考えを主張できる人」を目指して頂きたいです。そして、打たれ強くなってほしい。どんどん失敗してほしい。失敗は成長するために必要な種・肥やしです。

皆さんにとって好むと好まざるにかかわらず、勝山での暮らしはそれぞれの人生や生き方に大きな影響を与えています。そのことを自分の強みにし、これからの人生を歩んでください。



地域おこし協力隊
勝山高校OB
吉川 誠

講師の先輩方や、我々が昭和の時代に過ごした勝高と現在の勝高では、校舎や設備は大きく変わっていませんが、学生の数、時代背景、生徒たちが進むべき社会の在り様は大きく変化しています。

講師の先輩方は、勝高を卒業して都内で活躍されていますが、そのベースにあるものは勝山で育ち培われた人間力だと思います。

この人間力を学んでもらうきっかけとして今回の「キャリア教育」を企画しました。

勝高生が卒業後、どのような世界に行こうとも、学び、働き、新しい家族を築いたとしても、人としてのあり方を問われることは変わりありません。

勝山でも都会でも、人生の大事な場面では、人間力を問われる場面が必ずやってきます。「キャリア教育」が生徒の皆さんの将来に役立てば幸いです。

スポーツ・文化の秋 勝高生が活躍

陸上部

●県新人大会（北信越大会にも出場）
女子800m3位▼小林みずす（①）
男子やり投げ3位▼乾 雄凱（②）

弓道部

●県新人大会
男子団体3位▼宮川裕一郎、立壁玄佑、竹内裕亮、田中誠也

●北信越高校弓道新人大会
男子団体▼ベスト8（④）

男女バドミントン部

●県新人大会（全種目優勝で6冠、1月開催の北信越予選会にも出場）

男子・女子学校対抗 ともに優勝
男子ダブルス優勝▼木田悠斗・中村舜 準優勝▼南茂斗羽・竹澤陽生

3位▼松川智哉・黒川陽平
男子シングルス優勝▼木田悠斗 準優勝▼中村 舜

女子ダブルス優勝▼大林美空・高田末沙希 準優勝▼五十嵐友実子・田邊 裕美

女子シングルス優勝▼五十嵐友実子 準優勝▼大林美空

●中部日本バドミントン選手権大会
男子ダブルス優勝▼木田悠斗（⑥左）・中村 舜（⑥右）
男子シングルス優勝▼木田悠斗 準優勝▼中村 舜



近畿高等学校総合文化祭京都大会
福井県代表として出場
大谷慶喜（将棋部門 全国高等学校将棋竜王戦福井県大会B級優勝）
（⑦）、久保 葵（美術部）、日本文化部